



雲隠

有テ卷名云々 洞義法抄より

河カ卷名白雲ハクの巻はひらりうくれのあ
とりのもろは

雲クモがれとい人の遊ユまといつる人万葉よ人
の遊ユまろうこいといめえぬ命ありあれど
教キコ抄の巻より出く雲隠クモカケといふ百傳
の巻根乃池より鴨とくものこゑそや雲
隠れるんげや不可イコ勝マカ半ハされど此巻コノマキ雲隠
といふ名の源氏ユラ薨シノしゆりくしゆの心を
りてけり名を隠居雲うれ思ふし源氏のこ
ろニ源氏ニといふ巻のちハケ年の四
よわきこの人うせまふすと此巻よりこめ

石隠の庫

くろくそく卷の名斗まきし初んてぬまし
天名よ有門空門亦有亦空門亦有亦空門
此四門と有門の得道ハ具曇論ハありきり
空門の得道ハ成實論ハ明きり亦有亦空
門のゆたハ迦旃延經ハ後亦有亦空門の得
道ハ具動論ハありきりとも迦旃延經
具動論ハ天竺より傳りて漢土よ不
素然とて大師有門空門の義よそといま
ど經論とえり申と素明ハあり又毛
詩小雅の中ハ南溪白華々黍由庚崇丘
由儀の六篇ハ篇の名のとて詩の初ん
るハ是ハ逸待とのひてりハ細考ハ失

くろくこれよりりて東廣徴とてハ一人
詩と作と補古の待と名付文選第十
よのせり今のをぞれのをと作との
旬中よるべし御免去帝流の崩却とあ
らよといふべしと卷の名よそありと取
玄原奇物の化者のゆれ丸上古の名賢の
中よ絶のやとと人とととと武内大臣
以下も例多し幸明神仙傳多し多
足しと又ぬきの道乃先達業平綱目ハ
芳野川の河上の窟てんの川よ入定ハ
中波年の懸起よるそととととととと
くても絶とありとととととととととと

ことありけり。花鳥風月とりくわさぶ
とらざるも。仁義徳智信ニギキトイナチニとあきらめ人乃
善惡の教あり。又天台テンガイ空僧クウソウ中ナカと亦有亦
空門乃四門を底より入てヒヤクシヤウソウニ聖者セイシャ必善の
理をありけり。桐臺の淨門より初より
分業上係成一組のり法業を記記を一一と
以てともんてハ言くらん。只此心とりて諸
人乃仙道ととりめ人乃の善妙物徳の事を
とりてとらざるや。天台テンガイ兩立四教リウリツシウキョウ一ニハ三教サンキョウ
教二ニハ通教ツウキョウ三ニハ別教ベツキョウ四ニハ圓教エンキョウ也。比
内三教ハ界内カイナイの事と教ハ通教ハ界内カイナイの
理と教ハ別教ハ界外カイガイの事と教ハ圓教

ハ界外の理を教と云ふ。一是法法ホウホウの
の法也。是ハ法門のゆゆ。佛氏のブツシのノゆゆ。あ
らび四教ハ花嚴ケガン阿含アコン方等ホウドウ般若ハンニヤ法華ホフワ
涅槃ネはん五時を貫よりけり。法法ホウホウと四教
とりけり。六たんとも涅槃を法花ホフワより入り
法相ホフサウより又時をとり分て四教シキョウより門空
門カド也。此空門コノカラカド亦有亦空門モトモトカラカドをありけり。教
とりけり。も四なり。もとりけり。も分て
も阿ハ三教サンキョウ教キョウより門のゆゆ。通教ツウキョウに空
門カド圓教エンキョウ也。此も此も別教ベツキョウ也。亦有亦
空カラカドあり
又曰。咲花サキバナの自宮ミヤ卷乃獨トク也。述ツツ云イハレ法華ホフワ事コト云

雲隱と名付くは万葉の奇なり
有名無実事天竺四門は摩訶之土河海
空假中事有源氏物語中此物語は物
俗多れん空通也又此延喜者假諦也
雲隱中道也釈書又時教と曰此物語
亦人意又二十四帖皆亦空しく意
又源氏雲隱之後後醍醐院より作すも
且是ハ又亦亦亦空しく

此物語先書好色道終亦佛道之意可見
水波之聲云有之又云雲隱之事此物語中
貴人義色等無事神表情多定自桐童
聖業上既事盡了故光源氏終焉不

定也若書之者可言佛道也又云終氣
仍雲隱卷之中讓之也云々幻卷此
卷之乃九年ケリ也。蓋の年幻卷
中又云云六カケリ十四卷中九年之
愚案此咲花の院は河海花名乃女
抄と合を交へてある事云々云々
今更にわけてある事云々及び云々云々細
流の雲隱乃此院は河海花名乃女
云々云々。魚津抄の雲隱乃此院は
色云々云々の事抄に云々云々云々
云々云々云々好事の事云々云々云々

河
一 雲隠れと名づくる歌

此巻の幸しりる一 只名をりてその心を
歌とすなりは名をてして六条流ひり隠れぬ
ふ心あつてくく此詞作集ふと教まわれ
ども万葉集よ人の逝去とて云隠
きてつり

万一
弓削皇子薨時置始東人歌

又君々祐しりゆとては云のつが
への下にくれまぬ

万二
大伴皇子被死時作歌

百傳
りつくの岩根の池よ鴨をさふの

万三
又てや雲隠れらん

神亀六年左大臣長屋王賜死之時作歌
大君の又うりてとてわづこの時よは

万
わづねど雲隠れしと

天平七年新羅尼理願死時大伴房女悲
嘆作歌

とてめえぬ命しわれぬあめのあしりか
て雲がられしとこのおちるど作とてこよ
とは綱を 逝去の事よあつては

雲がられしとてわづねしとてわづねしと
雲がられしとてわづねしとてわづねしと

一 名づくる歌とて巻とてぬ

天台所立四教 三藏教 通教 四門 有門空門非有
別教 非空門亦有亦
 門有門乃得道 昆曇論 空門明道 成實
 論 明とり非有非空門之迦旃延經 說
 亦有亦空門ハ昆曇論ハ明とりととげど
 とは經論天竺よとくせりて漢およ相宗
 せ法ちうると大仰有門空門の義よりり
 ていせと經論をうんごり因別二教と判
 しうふ不思議そりり今の雲くんの是
 と作者の胸中にいへりて世に傳
 ぐや如もせん論ととる不六条院崩解と
 わりりいふは一と此卷の名よとめりり
 於甚原よりりや凡上古名賢の中よ終

不可謂之此例不
 當

のやうと人あつとりて中世に六条院以下を例
 多し一奉朝神代傳をとりて多く見え
 たり又如きの乃乃先達業奉朝臣芳野
 川の河上乃窟てんの川よ入定しとるよ
 一修前の縁起よとるよとる
 六条院頓滅之事
 黃帝の天にのがりしに比擬とるよ中右
 の先達やとる物ごうりのかりてよ所見
 一今案とるよとるよ富本の考よハ甚大
 柄の相よ故院失多ひて後二三年中末に
 せとそしと多ひり一修院流よと六条院よ
 とるよのぞく人の心ゆさめんよとるよ人

義は河之役正義也

ゆりゆるといつる世とのづれく張紙はり
張紙はりまてしきりしきり且雲りられの
巻とく一帖まらんその巻中の久遊ん
りりごとし其回も朱崔茂其の文致は
政大臣張紙はり下の人多くまじり
たり何として六条院にあり張紙とくまじり
みや文其の文意中お幻巻のまじりに
幼雅とみくしり十四葉少く白其の巻に
これえ服あり中將侍候とくしり是ふ
みくしひ合とくし

此巻と名のともして其詞いありしその
詞ありは六条院の昇進のしりまのまじり

よしりて雲隠れとい名付ゆり幻巻を
終よ紙年の目とこまじりしは巻よ六条
院ハ張紙しきりしりしりしりしり
葉明抄よりゆれど右年巻よ六条院世
とそしりしりしりしりしりしりしり
張紙はりまてしきりしきりしりしり
張紙はりしりしりしりしりしりしり
い巻よ紙の目とこまじりしりしりしり
よしりしりしりしりしりしりしり
巻よしりしりしりしりしりしりしり
十三すくのり八ヶ年の事ハ物給の面よ
いんしりしりしりしりしりしりしり

義毛詩中九
 南漢ハ孝子桐成テ
 以養也
 白華ハ孝子蒙息
 華黍ハ時和歳豊
 ニテ空黍稷也有其
 義而王其辭也
 由庚ハ万物得由其
 道也
 崇丘ハ万物得極其
 高大也
 田儀ハ万物之生各得
 其宜也

よさぶの地よ三三年一海居してその後前
 流しあふりよと世世こよ初わくごまろく次
 つとく梓世巻の名づりききて初をらん但
 ち天台の四教乃法門を例よりされど
 る代地をささる地しゆり信書をとりてい
 らく毛詩の小雅の中に南漢白華と黍
 由庚崇丘由儀の六篇ハ篇の名のそわり
 て初いさしきハ逸詩とひてりし初を
 一ぐりせりてそにゆりて東唐徴とい
 一人初とゆりて補亡の初と名付て文
 選の身十の巻よ乃せり朱晦庵ハ
 詩といひく樂曲の名るれんその初を

りしゆりわろく初と初一ゆりいさる
 篇の名ろくまろくその初をさし初一

愚按細流乃雲流の初流し咲花の初
 と思ふ人多し初よりそよ白文考の
 流よまろく初ゆり今そいさる

意自六集至十三集ハケ年のゆり編脱し
 び九ケ年のゆり可在雲流巻之中也其故
 ハ幻巻ん九めハ巻ハ七也ハ中間よ才九ハ
 雲うられとふ考の初号とまろく実りハ
 を考と不書是則考とハ少術ハ
 源氏一世之行状徳厚ク譽高ク才智人ハ勝
 し榮花世ニ起タリ然レハ其身終之ハ換普

通ノ後ヲ以テ不可符合也。司馬遷班固范曄温公モ筆力不可及。緇或木食草衣隱道修行之儀雖如佛在世之時。每其奇特。若又現神變不思儀者。人不可信之。或入滅之時。聖衆如星列紫臺ノ雲ヲ引テ親來迎ノ相ヲ示シモソレハ月馴テ尋常ノ物語ニ似タルヘシ。人夫悲ヲナシ五十二類悲諦啼泣ノ想ハ佛ノ涅槃ニ尽ヌレハ是亦事同アリ。若又登仙換骨シテ共形骸不留ト云トモ頗可似虚誕。依之同文取不及一言之處却而盡善盡美者也。

惣別此物語哀傷及教人桐壺更衣夕良

上葵上柏木六条御息所紫上大君等也

薄雲 桐壺帝 本ニナシ私入之ヲ

是等ニ皆事盡ヌレハ大方ノ筆力ニテ不可符合之也。此上ヲモ一廉ノ文章ヲ耀スベキ筆ハ式部ガ手ノ内ニ有トシルベシ。筆不及メ文ヲ闕ストハ不可見。一切ノ事不言之如妙處アリト云事ヲ示ス美也。維摩一默則十言万答是也。猶河苑ノ夜咲花ノ夜ホモリ
愚案ニ世ノ源氏物語ニテ六十四帖と云ハ
ありしと只六十四帖あり云隠乃本
名つらわりくそ綱とありしとあり定
そ中よわくめくろぶく是等との妙術

意之全う申後抄りありまうされ年。あう
り後人雲伝の事とをまうひ極人
果る刺櫛 八橋 滋城野 下下まとい
小書とくまうり。六十帖の教と漢一
めんとめや。も文種あつくりめくも我
之亦はくまう。桃花の系圖乃わくにそ
意の名づりありまうり。まうりといも
そ御とくハ二云と用ひまうり。そかの
後抄一切りも。西法もとまうり。されど
を伝用よまうり。物まうり。これ此
物係六十帖。天皇の六十巻に准せり。
そハハ六十巻も止観よ開ありまうり

前よあうり。されん。筆式ア。然けき
よめく。六十帖よ。めあうり
よまうり。や。げ雲伝の八年れら
よ光源氏末蔭院の崩御。後仁大后。舞
黒大后。當り。まうり。薨。そ。卯女。之。文。の
三。条。文。を。り。まうり。終。つ。ま。う。り。人。を。其。位
昇進の事。まうり。まうり。の。事。こ。り。れ
つ。ま。う。り。まうり。まうり。まうり。まうり。
まうり。まうり。まうり。まうり。まうり。



